

BMC 海外派遣報告書

化学専攻 表面化学研究室 D1 山本亮太

派遣時期：2009年8月30日-9月9日

派遣目的：国際学会 26th European conference on surface science (イタリア パルマ市)へ参加、及びドイツのMarburg、Elrangen両大学において関連分野の研究室を訪問

私は、BMCの海外派遣支援を受けパルマ市で開催された国際学会ECOSS-26 に参加し、研究成果をポスター発表しました。その後、表面における励起電子のダイナミクスを精力的に研究している、ドイツのマールブルグ大学Hofer研究室及びエルランゲン大学Fauster研究室を訪問し情報交換を行いました。

ECOSS は、ヨーロッパで毎年開催される表面科学に関する国際会議です。一昨年のノーベル賞に表面科学の業績で受賞者が出たように、ヨーロッパでは表面科学が非常に盛んに研究されています。発表も非常に多く、国内の会議よりも活発な議論が休憩時間も含めて行われていました。最先端の研究内容を著名な先生が発表しているのを実際に聞くことができ、貴重な経験をすることができました。ポスター発表では海外の同世代の学生たちとも議論することができました。また、イタリアのパルマ市はサッカーで有名ですが、食事や歴史的な建造物など観光の面でも素晴らしい都市で余った時間も楽しめました。



ドイツでは2つの大学を訪問しました。共に世界的に有名な研究室で、表面科学のフロンティアを精力的に研究されています。これらの研究室を訪ね、Fauster先生ご自身や実際に研究を行っている大学院生の人から、装置を直接見ながら実験の様子を教えて頂きました。実際に研究室を見学することで、これらの研究室がどのような考え方で研究を行っているのか雰囲気がわかり、研究に対する関心が高まりました。現在立ち上げ中の装置も見学し、今後の研究計画について聞くこともできました。また最近の研究内容をお互いに意見交換しました。大学院生の学生さんたちは非常に研究熱心で、沢山議論をすることができました。ドイツの人はとても親切で、突然の訪問でしたがみんなが温かく歓迎してくれました。



英語が不得手で苦勞もしましたが、外国に行き英語でしゃべらざるを得ない環境で過ごすことで貴重な経験を得ることができたと思います。そしてなによりも自分と同年代の海外の学生と話げできたことが、今後研究を進める上でやる気を引き出すいい刺激になったと思います。最後になりましたが、このような機会を与えて頂き、お世話になりましたBMCプログラムの皆様に感謝しお礼を申し上げたく存じます。ありがとうございました。